

令和2年度第4回 第三吾孺小学校 校長「語らいサロン」
テーマ『GIGA スクール構想の疑問点と不安なこと』

令和3年1月23日(土) 9:00-9:55 オンライン (Zoom)にて
参加者 保護者5名

川中子 それでは、9時になりました。おはようございます。本日の第4回「語らいサロン」をこれから始めたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、始める前に確認をしておきたいことがあります。

(Zoomによる「オンライン語らいサロン」、参加上のおねがいの確認)

それでは、今日のお話ですが、1月のテーマは「GIGA スクール構想の疑問点・不安なこと」についてということで話をしていきたいと思います。GIGA スクール構想の、一番大事なこととして、タブレット端末を一人1台子どもたちに配布するという計画があり、1月からスタートしました。そのことについて後でお話ししていただけたらと思うんですが、まず、今日ご参加いただいている皆さんのご自身のことを、自己紹介をお願いしたいと思います。お子さんの学年とお名前を教えてください。それと、今回はICTの活用について、ご自身のことやお子さんのことについてのエピソードをお聞かせ願えればと思います。ご自身がICTをどのように使っているか、それからお子さんが例えばスマホを持っているか、など、そういう話題を提供していただけたらなあと思います。それでは、私のところで映っている順番でお話しさせていただきます。Aさん、ですね。よろしくお願いいたします。

Aさん おはようございます。3年生と5年生の保護者(父)のAです。よろしくお願いいたします。ICTについてですが、我が家ではiPadとスマホをよく使っておりまして、休校の際に習い事が、ピアノとかそろばんとか、休講になりまして。直接通えなくなったところで、早い段階から、Zoomを使って先生方に教えてもらって、やっております。私も、仕事でZoomやTEAMSを使うことが多いものだから、わりかし早くに取り組めたかなと思います。はい、以上です。

川中子 はい、ありがとうございます。今日はよろしくお願いいたします。では、Bさんですね。よろしくお願いいたします。

Bさん おはようございます。4年生の保護者(母)です。GIGAスクールは、私の努めている会社でも同じようなことをやっているの、興味があって参加しました。どうぞよろしくお願いいたします。本人は、母のものを使って、iPadなり、携帯なりを使って調べ物などを行っているようです。以上です。

川中子 はい、よろしくお願いいたします。それでは、Cさん、お願いします。

Cさん 3年生の保護者(母)です。おはようございます。「語らいサロン」に何回か参加させていただいているんですけど、ちょっと、だんだんと、一人目の時のような子育てのセミナーを聞きに行ったりという情熱もなくなって、こう、参加することによって反省したりとか、考えるきっかけになるのがいいなと思って、できるだけ参加させていただきたいなと思っていて。あと、タブレットのこともまだあんまり見てあげられていないので、iPadもって帰ってきてからもどこまでできて、そういうのが私自身も分かっていないのと、子どもが宿題とか提出してシールやハンコを喜んでいようところがあつたので、それを残念がっているんですね。それはどうなのかなと思って、お伺いできればと思いました。よろしくお願いいたします。

川中子 今、私以外に3人の方がこの部屋に入ってきて話を進めていきたいと思いますが、またこれから参加される方もいると思いますので…。あ、今、一人入られましたね。ちょっとお待ちください。(接続の確認)

今日の話ですが、三吾小のGIGA スクール構想の現状について私のほうでさせていただいて、それから今回のGIGA スクール構想のことについて、皆さんの感じになっているところ、さっきDさんからも、すごく大事なポイントを教えていただきましたので、そういうのをぜひお聞かせ願えればと思います。

それでは、まず三吾小のGIGA スクール構想ですが、Bさんのご専門だということですので、こちらが教えていただきたいところ。子どもたちに1台のタブレット端末等を渡して、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたち一人一人の資質・能力を確実に育成できる教育ICT環境を実現するための構想、ということ。墨田区は、かなり真剣に取り組んでくださって、他の市区町村も取り組んではいるんですが、かなりいい線でご進んできているんじゃないかと思えます。この1月から全児童・生徒にiPadの配布が始まっています。国からは4万5千円の補助が出ているんですが、実際に皆さんにお配りしているのは6万円くらいしますので、差額は墨田区の税金でまかなっているということです。

本校の場合は、平成30年度・令和元年度の墨田区学校ICT化推進タブレット端末活用モデルに指定されていて、区内の学校で唯一、学校に240台のiPadをいただいて、通信関係も整備していただいて、2年間iPadを使っての授業をやってきました。学力向上を目指す研究ということで、iPadを使いながらですね、学芸大学の高橋純先生という方に来ていただいてご指導いただいたり、台東区の方で活躍されている佐久間茂和という方に専属講師になっていただいて、月一回くらいずつ研修をやってきたという感じです。子どもたちは

タブレットの扱いには非常に慣れて、簡単に言うと、学習の中で自然にタブレットを使えるようになってきています。タブレットはもう特別なものではなく、鉛筆やノートなどと同じようなツールの一つになってきているかなと感じています。

昨年の、ちょうど1年前ですね、1月21日に本校でやって来た研究の発表を本校で行いました。あ、Dさんですね。

Dさん おはようございます。

川中子 ご参加ありがとうございます。それでは、簡単にお子さんの学年とお名前と、それからICT関係の使用状況などについて、自己紹介を兼ねてお話しいただけますでしょうか。

Dさん 3年の保護者(母)です。うちは、スマホとかはもたせてなくて、**去年の休校中にタブレット式のパソコンを購入しました。**そこから、本人が好きなおことじゃないと始めないので、アルファベットとかの練習用にマイクラを始めてアルファベット入力で本人にやらせて、そこから、学習の。そこから興味を持ってきたら計算とかそういうのに取り組んで今やっている状態です。でも今、基本マイクラが中心になってきちゃっていますね。

川中子 そうですか。それでは、Dさん。今、私の方で今の三吾小の現状をお話しさせていただいて、また後で、今子どもたちにタブレットを配ったんですが、何に気をつけていったらいいかなどについてお話をしていきたいなと思いますので、また後でお話ししていただいたりすると思いますのでよろしくお願いいたします。

Dさん はい。よろしくお願いいたします。

川中子 それでは画面の方に戻ります。えー、三吾小では2年間タブレットを使った授業研究に取り組んできていましたので、今、2年生以上の子どもたちは、普通に授業に使うiPadの使い方は、普通に使いこなしています。これは、他校の子どもたちとはずいぶん違う状況ですね、本校は2年分進んできて良かったなと思っているところです。

ちょうど私たちが1年前に研究発表をやったときにですね…。あ、もう一人いらっやいましたね。

Aさん 画面が共有されていないようですね。

川中子 あら！そうでしたか。ちょっと待ってください！…これでどうでしょうか？

Aさん あ、大丈夫です。見えました。

川中子 良かったです。あ、Eさん、聞こえますか？ご参加ありがとうございます。

Eさん おはようございます。遅くなりまして…。

川中子 とんでもございません。それでは、最初に、自己紹介を兼ねてお子さんの学年とお名前と、それからICTの活用状況についてお話しいただけますか？

Eさん 3年の保護者(母)です。よろしくお願いいたします。家庭では、タブレットなんかはもともと使っていたので、今回iPadが支給されても、あまり抵抗なく、使えている状態ではあるかなという感じがします。

川中子 そうですか。ありがとうございます。それじゃ後でまた、タブレットの使い方なんかについてもみんな話してみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、今、画面に映っているやつで、学校の現状を今お話ししています。

昨年の1月21日に研究発表会をやったですね。そのとき、ちょうど一月ぐらいい前に文部科学大臣がこういうことを言ったというのがあったんですね。(この後、萩生田文科相が突然発表したGIGA スクール構想についての、資料にあることの説明)本校の研究発表が終わってひと月後ですかね。コロナの影響がどんどん広がって行って、2月27日の阿部元総理の休校宣言となりました。そこから3ヶ月、学校が休校になり、このICT機器を使って相互のやりとりができるようになっていなかったという、日本の弱点があらわになりました。**三吾小では、2年間の実践がありましたので、子どもたちも慣れていて、区内でも他校に先駆けて今週からタブレットの持ち帰りも開始したというところ**です。他の学校はまだ学校で練習をしていて、持ち帰りはまだしていません。三吾の状況を見て、他校でも進めていくということになっています。ただ、緊急事態宣言も出ま



したので、とにかく早くしようと、教育委員会も焦っている状況です。

それでは、今、タブレットを配ったんですが、タブレットについての疑問点とか不安に思っていることなどがあたらお話ししていただければと思うんですがいかがでしょうか。ここから15分位このお話しができたらと思うので、ぜひ積極的にお話ししてください。ご意見ある方はミュートを解除して、お話しいただければと思います。あ、それでは、Aさん。お願いします。

Aさん はい。案内を見ますと、勉強の用途に使ってくださいと書いてありますが、よく見ると音楽のソフトが入っていたりして、そちらで私、遊んでしまっ、子どもに注意されてしまったんです。どこまで活用していいのかな、と、家庭内で活用していいのかなと感じています。

川中子 ありがとうございます。他のご家庭はいかがですか？ おうちに持って帰ってきて、どうでしょうか？

Dさん うちは、結構、動画撮ってる感じですね。写真、カシャって撮って少し戻して送るみたいなことができるので、それを使って遊んじゃって。まだ、そこまで家の中では勉強で定着していない感じです。そっちのほうが、今、興味持っちゃっている感じです。学校から、タブレットでここはやっておいて、っていうのが明確にしてあると、やると思うんですけど。本人もどれをどこまでやる、というのがわからないみたいで。今現在では、そんなに活用ができていないかなって感じがします。

川中子 そうですね。家庭でどういう風に使うかっていうのは、学校の方でも今試行錯誤しているところで、各学年で今工夫しながらやっているところなんです。わざと、タブレットを使うような宿題をだしたりということを先生によってはやってみて、先生同士で情報交換もしているところです。あ、今、もう一人入ってくださいっている方がいらっしゃるようですので、少々お待ちください。あ、うまくいかなかったかな？ 他いかがでしょうか。Bさんのところはいかがですか？

Bさん うちは、「今日の一句」というのが毎日宿題で出ているようで、楽しみながら使っていますね。知らなかったのは親だけだったんですが、こんな風にうまく使っているんだと感心しております。ですが、どこまで制限をかけてあるのがちょっと分からなくて、余計なところにははいらないようにとはしているんですが、皆様同様、どこまで介入していくべきかに関して質問がありました。

川中子 ありがとうございます。Cさんはいかがでしょうか。

Cさん うちは、連絡帳がタブレットになっているので、帰ってきてまずそれを確認して、それから学校でやっているプログラミングを使って遊びだしてしまって、宿題はおわったものを写真で撮って提出していました。連絡帳は、私が忙しくてあまり、ノートに書いてこないで、見てあげていなくて、さっそく忘れ物をしだしているかんじです。あと、皆さんおっしゃっていたように、どこまでできるのかっていうのを私がまだ見ていないので。パスワードをいれるのが面倒くさくて見ていないので、どこまでが制限ができていいのか、そこらへんがお伺いできたらなと思っています。

川中子 ありがとうございます。Eさんのところはどうですか。

Eさん うちの場合は、やはり、連絡帳が少し前から始まって。それから、トッピングでこのあいだは、各時代の名称だったりそういうものを調べていました。それから学校でグーグルアースは使っていていいよとってもらったようで、おうちでちょっといろんな、エジプトだったり、いろんなところを見て遊んでいたりしていました。うちの場合は家にもともとタブレットがあって、なんとなく、個人の中でもiPadでやるのは学校のこと、自分で遊んだりとか、プログラミングだとかは元からあるタブレットやパソコンを使ってやるというように、なんとなく子どもの中で棲み分けができていると思うんです。お手紙とかに、友だちと Zoom ができるよっていうようなことが書いてあったので、そのへんで今後、どんなふうにして進めていくのかなっていうのは、ちょっと不安もあります。

川中子 ありがとうございます。まず、どのへんまでiPadが使える範囲があるのかっていう質問が多かったかと思うんですが、これまで学校で使ってきたiPad



はセキュリティの問題もあるんですが、制限がかかっていないのを子どもたちに使わせていました。ですから、YouTubeでも何でも見ることができたし、調べものもすぐにできたんですが、今回区が全員に配布するに当たり、かなり大きな制限をかけて配ることになりましたので、例えば、YouTubeなんかも見ることができないようになっていきます。iPadそのものに入っている機能は使うことができるようになってきていると思うんですが、外部とつながるのが、これと、これと、これっという感じに制限されています。今、学校ではロイロノートスクールという、アプリケーションを使っています、授業支援システムというか学習支援システムというんでしょうか。子どもたちが学習したものを提出するなんていうのはこれを使っています。世の中にはいろいろ似たようなものがあるんですけど、例えばグーグルの作っているグーグルクラスルームですか、いろんなものがあるんですが、墨田区ではロイロノートスクールというのを中心に活用を図ろうとしています。それと、今回お配りしiPadの中に、AIが搭載された学習支援のシステム、ミライシードというのが入っています。これは小学校1年生から中学校3年生までの学習内容がすべて入って入って、ドリルのようなものが入っていると考えていただいたらよろしいでしょうか。簡単に言うと漢字ドリルとか計算練習とか、中学校3年生の分まで入っています。自分で選んでやることができますので、例えば3年生のお子さんでも4年生や5年生の問題を選んで挑戦することもできるようになっています。個別最適化ということにあわせて、AIが搭載されたアプリケーションを搭載した、ということを区がしきりに宣伝しています。そういうのをどんどん自習用に使っていくことができるかなと思うんですけど、まず、学校から課題として出していくっていうのは、先生たちも今研究しているところです。Zoomなんかについては、今、子どもたちのやつには入れることができないようになっているので、今後必要に応じて、オンラインでやりとりのできるようなものをいれてるべきかということも私たちも今考えているところですね。

まあ、ご家庭で子どもたちが学習にどういう風に使うかっていうのは、ご家庭で管理していただくというのは難しいと思うので、子どもたちも勝手に使ってくれればいいかなとは思いますが、例えばですね、3年生だったかな？ロイロノートスクールの中に、音声で子どもたち同士でやりとりができる機能を見つけて、〇〇ちゃん、なんて話しかけたりしているのがロイロノートスクールの中に残っていたりすることもあります。子どもたちも自分でどんどんやり方を工夫していくようになってくると思いますが、「〇〇は使っていていい」使っていていけない」というような、規制をかけていくというようなことだけではダメなんじゃないかなということで、学校では、これからインターネットとどういうふうにつきあっていくのかということ子どもたちに教えていかなければいけないと考えているところです。

そのインターネットを使う、っていうところで心配なことはございますか？

Aさん 制限というよりは、むしろ、保護者からの制限というよりは、区の制限が厳しいかなということを感じまして、この前、動画で調べ物をしようとしていたところ、やはりYouTubeは開けないので。例えば、算数の問題とかで、解き方を動画で見ようと思ってもできないので、家のタブレットでやるように切り替えました。ちょっと惜しいかな、という感じがします。

川中子 そうですね。非常に難しいところですね。自由度が増せば使い勝手も良くなるけれど、子どもたちにとって危険性も高まっていくかなというところですね。Bさんなんかは、お仕事でも、そのあたりのことはどういう風にお考えなんですか？

Bさん 当社の方で使っているものと、やはり墨田区のように制限をかけて、例えば海外の方で使っているものと、お手洗いで写真は撮れないようにしてあったりとか。今回墨田区では当社のもを使っていないということだったんですけど、まあ他の他社がどういものを使っているのが、私の方iPadをあまり見せてもらっていなかったんで、皆さんのように、使い勝手がまだ分かっていなかったんで、今回学校から帰ってきたら見せてもらおうかなと思っています。

川中子 今回、3年生までのおさんはキーボードのないものを配布しています。4年生以上は、キーボードがついているもので、私たちが使っているのはこういう形で、キーボードがついているものなんですが、子どもたちが持ち帰っているのは取っ手が付いているようなものを持ち帰っていると思いますね。キーボードの練習なんかも含めて、ローマ字を練習した高学年ということなんです。ぜひ、見てみていただければと思います。

Cさんはいかがですか。お子さんがインターネットを使うことについてはどうですか？

Cさん そこまで、抵抗はない、んですけど。やはり、上の子たちがいるので、パソコンやらタブレットやらスマホやら、授業がZoomの時もあれば、それぞれが学んでいってくれないと困ると、SNSやっている子もいるし。そこまで大きな心配はしていないんですが、それぞれ自分で気をつけながらやってほしいなと。それから学校のタブレットまだ見ていないんですけど、先程、動画は見られないというお話だったんですけど、ちょっと調べるのは、サファリが入っているのは見たんですけど。検索とかもできないようになっているんですか？

川中子 自由な検索ができないようになっていますかね。

Cさん なんか、Yahooキッズは使えるようですね。
 川中子 そうですね。Yahooキッズは大丈夫ですね。
 Cさん それでは、検索はできるんですね。
 川中子 あと、NHKフォースクールというのも入っていて、それを見て勉強もできます。
 Cさん それから、パスワードをいただいたタブレットドリルもまだ見ていないんですが、そう言うのもそのiPadでできるんですか。それとは別にミライシードというのも使えます。
 川中子 はい、そうです。
 Cさん タブレットドリルとは別物ですか？
 川中子 はい。もうちょっといいものだと思います。タブレットドリルは、まあ、普通の紙のドリルがタブレットに入っているだけですが、ミライシードはAI搭載型で、漢字の練習をすれば書き順の練習ができたり、採点も自動でやってもらって、あなたに最適な問題はこれです、と選んでもくれます。
 Cさん ありがとうございます。
 川中子 はい。Dさんはいかがですか。
 Dさん そうですね。うちも学校で支給される前にタブレットとか使っていたのでそんなに抵抗はないですけど、家では調べ物なんかするときに、〇〇調べたいから貸してって、言って調べるようにしています。そこまでは、抵抗はないんですが、たまに、**広告とか出てきて、分からないでタップしちゃったり**。そういうのはちょっと怖いと思っています。でも今のを聞いている、学校のタブレットでやる分に関しては、そういうのはないのかなと安心した感じで。私も学校のタブレットがどういことができるというのを理解していないので、皆さんが言った連絡帳が見られるとか、そういうの知らなくて。まだ私自身がタブレットについてよく分かっていないので、なんとも言えないなっていう感じですね。
 川中子 私も子どもたちが授業で使っているのを見ると、実際自分では使っていないので、よくできるなあと驚いているところです。
 Dさん 子どもの方が早いですよね。
 川中子 そうですね。はい、ありがとうございます。Eさんはいかがですか。
 Eさん そうですね、うちもタブレットとかは使ったりしていたので。うちもやっぱり子どもが使えるタブレットは、子供用に制限をかけたりにしてやっていたんですね。なので、見れる動画見れない動画があったりとか。そういうのはもともとかけてはいたんですけど。今回、iPadはうちで使っているのよりもちょっと規制がかかっているのかなって感じは受けたので、どちらかという教材として。その中で子どもたちなりに工夫をしながら、さっきおっしゃっていたみたいに、音声でできるのを探したりとか、子どもがいろいろと工夫してやっていけたらいいのかなと。私自身も、全然見られていないので、子どもたちがどんな風に活用していくのかなっていうのを、**これから先も親としてきちんと見守っていき**るの**かって言うのがちょっと不安**なところではあります。
 川中子 はい。そうですね。ありがとうございます。実際ですね、高学年の子どもたちなんかはスマホ持っている子も多くて、**SNS上で悪口を書いてしまってトラブル**になったり**ということは、三吾小でも起こっています**。中学校になると、かなり大きな問題になっていっている話も聞きます。いじめにつながっていたり、誹謗中傷につながっていたり**ということは起こっています**。まあ、そういうことは、今回お配りしたiPadでは特にできないとは思いますが、例えば、提出するものに、何か悪口書いて提出したりして先生に怒られたりしている子は何人かいますね。でもそういうのを繰り返しながら、本当の使い方を子どもたちも学んでいくのかな、とも思いますので、あまりすべて制限かければいいのかというのではないかなというのを、学校もこの2年間考えてきたことではあったんですが。
 まあ、それでは、ちょっと時間もありませんので、最後に、これからこういうのをやっていく上で、ちょっと気をつけていかなければいけないなという、一つの参考として、私この正月に、たまたま。毎年お正月だけ新聞を何社か買ってきて読み比べたりしているんですが、そのどの新聞にも載っていた広告に興味があって、すぐに手に入れて読んだ本があるんですが、それが『スマホ脳』という本なんですね。それが、子どもたちがこれからこういうのをやっていく上でどういうことに気をつけなければいけないかなというのを、非常に示唆に富んだ本だったので、ちょっとそのお話をさせていただきます。

(ここから、レジュメ後半と、資料に書かれている『スマホ脳』の内容の紹介)

まあ、こういうのを読んでもとですね、子どもたちにこういうものを使わせるときは気をつけなければいけないなと思いますね。今回学校でiPadを配ったときに、**3つの約束とか10の気をつけなければならないこと**なんて言うのも指導しています。使い方の問題、使う時間の問題なんかも、子どもたちがきちんと管理できるようにという風に話しているのですが、子どもたちだけではそれをすべて管理することは難しいと思うので、私たち教員や保護者の皆さんにも協力をいただかなければいけないかなと思っていますところ。

まあ、最後にこういうお話を、使うのに怖いなという気にもなりますが、学習に効果的に使うと、子どもたちは非常に意欲的にもなりますし、実際、教科



書とノートだけよりも**子どもたちはiPadを使っているときの方が生き生きと勉強している様子を授業中にも見られます**。AIを搭載したものは、**子どもたちの苦手なところを補強したりするのに非常に役に立つところもあります**ので、どのように使っていくかが非常に大事になっていくのではないかと思います。

それでは、時間も来てしまいましたので、最後皆さんからありますか。Aさんいかがですか。

Aさん ありがとうございます。非常に勉強になりました。**子ども任せにしないで親も関わっていききたい**と理解しました。どうもありがとうございました。

Bさん 同じくですね。親の方も、諦めず、ちゃんと目を見張らせて、何に興味をもって、**興味を持つものはやらせてあげたい**と思うんですが、**やはり行きすぎた過度な使用はさけてあげたい**と思っています。いろいろとご教示いただきありがとうございます。

Cさん ありがとうございます。本当に同じくで、しっかり見守って、**諦めないで注意するところはしっかりしていけない**と思いません。改めて。ありがとうございます。

Dさん ありがとうございます。うちも、そうですね。**やっぱりタブレットの方がとつきやすく、本人もやる気が出やすいので、そこをうまく活用しながらやっていき**たいと思います。私自身も扱いに慣れていききたいと思います。ありがとうございます。

Eさん はい、今日は本当にありがとうございました。校長先生の、さっきの最後のお話でもありましたが、私もそこが一番気になっているところではあって、10年っていう、まだSNSが普及してまだ10年しかたっていないってことでまだまだ分からないことがたくさんあるって言うことですね。私自身もついこの間、タブレットとかSNSとか使って、**脳の発達への影響**という記事を読んだりして、**タブレットとかそういったものを使っている子は著しく脳の発達に影響があった**という記事を読んで、**不安になりました**。まだまだ分かっていない中でこういったものがどんどん進んで行ってしまって、**子どもたちの世代が逆に犠牲になってしま**う**って言うことがないようにしていきたい**な**と**思っています。今のその学校の方からもいろいろと発信して、教えていただけたらと思います。よろしくお祈りします。

川中子 はい。ありがとうございます。実は学校の方もこういうことに関しては、みんな素人ばかりですね。詳しい人もいるんですけど、先生たちも今こういうことを初めて体験しているところで、**試行錯誤を続けているところ**なんですけど、皆さんのこういうご意見なんかも取り入れながら、**学校も最善を尽くしていき**たいと思います。それでは、今日はありがとうございました。また、こういう機会がありましたら、ぜひご参加ください。ありがとうございました。

(文責:川中子)